

## CONTENTS

文化人の本音 河合肇雄文化庁長官対談 第25回 ゲスト 黒川 清さん ●日本学術会議会長

富士山だけが山じゃない	4
長官コラム 文化庁の抜穴	9

連載	いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート	
	那須野が原博物館(栃木県)	22
	芸術文化の活動風景 ①	
	鈴木文夫(映写技師)	23
	そうかこうすばいいんだ! 著作権教育実践事例 ①	
	著作権を大切にすると社会を目指して	24
	文化交流使の活動報告 ①	
	国本武春(浪曲師)	25
	伝建地区を見守る人々 伝建歳時記 ①	
	樹木医からみる伝建地区とシダレザクラ(秋田県角館町)	26
	遺跡を楽しむ ①	
	連載を開始するにあたって	28
	文化庁の地域文化振興施策 ①	
	平成16年度における文化庁の地域文化振興施策	29
	国語研究の最先端 ①	
日本語を海にたどってみると	30	
風を呼ぼう、わが町に 登録文化財との歩み ①		
「蔵の街」の繁栄を物語る歴史的建造物	31	
文化力ニュース from 関西 関西元氣文化圏の特色ある取組 ①		
岡崎地域周辺をひとつの大きな庭園と見立てる	32	
国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法—文化財鑑賞の手引き—⑩		
仏像の持物と台座—蓮華—	33	
日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保持者編37		
横山義雄(金具鍛冶)	34	
文化庁ニュース	平成15年度文化庁賞上優秀美術作品	35
	科学技術・学術審議会資源調査分科会報告書 「文化資源の保存、活用及び創造を支える科学技術の振興」 について	37
	文化庁月報平成15年度総目次	38
イベント案内	東京国立近代美術館フィルムセンター 造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界	41
	京都国立近代美術館 COLORS ファッションと色彩—VIKTOR © ROLF © KCI—	42
	京都国立博物館 特別展覧会 亀山法皇七〇〇年御忌記念 南禅寺	43
	奈良国立博物館 春季特別展 法隆寺—日本仏教美術の黎明—	44

特集	平成一六年度の文化庁重点施策	10
	「グローバル化」の中の文化政策と企業	16
山口県環境生活部文化振興課	「やまぐち文化ビジョン21」の策定について	20
新国立劇場スポットライト	5月の国立劇場	46
	芸術文化振興基金ニュース	47
題字デザイン	桑山弥三郎	

今月の表紙  
 [上] 国宝「姫路城」(兵庫県) 写真提供: 姫路市  
 [左下] 春の矢田山周辺(奈良県) 写真撮影: 宮裏義夫  
 [右下] 大宇陀町の又兵衛桜(奈良県) 写真撮影: 宮裏義夫

新国立劇場スポットライト .....45  
 5月の国立劇場 .....46  
 芸術文化振興基金ニュース .....47  
 題字デザイン 桑山弥三郎

## 文化と情報化

国立情報学研究所  
教授

安達 淳

高精細のデジタルテレビの出現をはじめ、情報技術の発展は文化や芸術の鑑賞にも新しい可能性をもたらしてくれました。また、ブロードバンド（広帯域）ネットワークが急激に普及しインターネット大国となった日本では、案内情報の入手もたいへん容易になっています。

デジタル技術の進展は、人々が楽しみ活用できる情報の中身そのもの（「コンテンツ」と呼ばれます）の充実や多様化が重要な課題であることを再認識させました。特に、文化関連の情報は日本国民のためだけではなく、外国への文化の紹介や交流に直接的に役立つ重要な資産といえます。インターネットを活用すれば、場所や時間を超えて文化を楽しむことが可能になるのです。

## 文化遺産情報化推進戦略会議

昨年度は、文化と情報化の観点から注

目すべき施策が始まった年です。文化庁では、文化遺産情報化推進戦略会議（座長・末松安晴 国立情報学研究所長）を平成一五年四月に発足させ、文化遺産に関する情報化の総合的な推進戦略を検討することになりました。また総務省でも六月からデジタル資産活用戦略会議が開始され、コンテンツを流通・活用するための環境作りの検討が始まりました。これらの二つの省庁が互いに連携を取り政策を進め相乗効果をねらうという進め方も特徴的といえるでしょう。さらに、文部科学省でもデジタルアーカイブに関する研究開発を推進するなど、文化と情報化にかかわる国の政策が大きく展開した年といえます。

## 文化遺産オンライン

文化遺産情報化推進戦略会議の主要な論点は、「文化遺産オンライン・システム

ム」の実現と提供でした。これは、全国の博物館、美術館、関係団体等の参加を得て、さまざまな文化遺産に関する情報を総覧できるような情報システムのことです。扱う情報は、博物館・美術館等の収蔵品のほか、建造物、記念物、文化的景観や、伝統芸能、工芸技術、民俗等の有形・無形の文化財など多様な対象を含んでいます。そのため、このような情報システムの重要性は理解できるものの、情報内容が多岐にわたり扱いも性質も異なることから、その実現についてはなかなか進展してこなかったことも事実です。

一方、博物館等では自館の所蔵品をホームページで公開することも普通になってきました。文化遺産オンラインは、このような動きを加速し、各館からの情報を集積することにつながり、このシステムがインターネット上で閲覧可能な文化遺産情報に関する総合窓口となるよう構想

されています。

## 試行版の公開

図に示したものは、文化庁と協力して国立情報学研究所の高野明彦教授が中心となって実現した試作システムのホームページです。専門的な知識がなくとも、時代や分野などから、例示画像を使って対象を見つけられるように、使いやすさを最大限配慮しています。平成一六年四月にはこの試行版を公開し、次なる本格版の実現へと展開していくこととなります。

## 文化遺産オンラインの目指すものは

このシステムでは、全国の博物館等の



文化遺産オンライン（試行版）のホームページ

文化遺産を網羅的に探すこと、画像や類似の事物から連想的に探すこと、提供された文化遺産の解説や簡易画像を見ること、所蔵する博物館のページに直接飛んでいって詳しい情報や展示などの情報を得ることなどができるように工夫されています。この発展形として、ネットワーク上で仮想的に特別展を開くなどの機能も実現できるのではないのでしょうか。

平成一六年度予算で継続的に文化遺産オンラインを発展させるための経費を措置しています。全国から文化遺産情報が集まりやすい仕組みを考え、システムを維持発展させていくため、体制整備が図られます。

## 平成一六年度の発展

文化庁では、東京国立博物館をはじめ、国立、公立、私立等の三〇程度の博物館等の協力を得て情報提供をお願いし、試行版を実現しました。平成一八年度には全国一〇〇〇館程度の参加の実現を目指しています。

さらに、利用形態に応じた権利処理の

具体例等を取りまとめた実務マニュアル等の検討や、博物館等で考えられる有料コンテンツの閲覧や利用課金システム等の事例研究なども必要です。平成一六年度にはこれらも含めた文化遺産に関する情報化の総合的な推進戦略が作られることが期待されています。

進戦略の策定を進めていくことともに、

◆長官対談

「文化人の本音」 河合隼雄文化庁長官対談  
藤村実穂子 声楽家  
「長官コラム文化庁の抜糸」

◆特集

国立文楽劇場開場二〇周年

【提言】

国立文楽劇場開場二〇周年を迎えて

「論文」……………日本芸術文化振興会理事長

「文楽の魅力」……………山田庄一

【解説】

文楽劇場の概要

【寄稿】

「人形浄瑠璃文楽の第二回ユネスコ人類の  
口承及び無形遺産の傑作に関する宣言」に  
ついて

開場二〇周年に寄せて

文楽公演の舞台裏

◆文化庁ニュース

平成一五年度(第五四回)芸術選奨 ほか

◆連載

「芸術文化の活動風景」

生涯ステーションジャー

「いきいきミュージアム」美術館・博物館事業レポート

山口県立美術館(山口県)

「そうかこうすればいいんだ」著作権教育実践事例

体験やIT活用をおして、著作権感覚を高める

「文化交流使の活動報告」

喜劇俳優・小宮泰孝

「伝建地区を見守る人々」伝建歳時記

心やすらぐ住空間のなかで(福井県上中町)

「遺跡を築しむ」

考古学者と新しい博物館

「文化庁の地域文化振興施策」

本物の舞台芸術体験事業

【国語研究の最先端】

意味世界を見渡す

【風を呼ぼう、わが町に】

意味世界を見渡す

玉網製造(たたら)き・渡部勝彦

【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】

工芸品の修理

# 文化庁月報 4月号 (通巻427)

平成16年4月25日印刷・発行

## 編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

## 発行—株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03 (3571) 2126

販売 03 (5349) 6666

URL : <http://www.gyosei.co.jp>

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株) ぎょうせい 営業部 広告課

電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

©2004 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。

## 編集後記

一六年度最初の特集は、「平成一六年度の文化行政の重点的な取組」というテーマです。

文化庁では、「文化ボランティアの推進」や「関西元気文化圏」に代表されるように、「日本の社会を文化で元気にしよう」という河合隼雄長官の提唱に基づき、さまざまな施策を実施しています。

この不況の世の中で、「何が文化だ」と思われる方もいらっしゃるでしょうが、このよ

うな状況だからこそ文化の「もつ力」(文化力)が問われるときではないのでしょうか。こんな不況のときでも、ふと入った映画館で見た映画や、街角の書店で買った二冊の本に感動し、「また明日から頑張るぞ」と思いを新たにした経験というのは、誰でも一度や二度はあるのではないのでしょうか。これこそ文化の「もつ力」(文化力)だと思います。文化には数値では表せないそんな力があると確信しています。(宇)

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●  
<http://www.bunka.go.jp>